

2021年度 入学試験問題(第2回A)

# 国 語

## 注 意 事 項

1. 試験時間は50分間です。
2. 問題は1ページから12ページまであります。
3. 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。

帝京八王子中学校



【一】次の——線について漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。

- ① 会社を営む。
- ② 不燃の材料を使う。
- ③ 今年はお米が豊作だ。
- ④ 貧しい生活からぬけ出す。
- ⑤ 造花をたなにかざる。
- ⑥ 病院でケンサを受ける。
- ⑦ 他国とボウエキをする。
- ⑧ 友人をパーティーにシヨウタイする。
- ⑨ 大会出場をキョカする。
- ⑩ 部屋をセイケツにたもつ。

【二】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

明治期の日本が近代化を進める上でお手本にしたのは、イギリスではなくドイツが中心でした。当時のドイツはヨーロッパの中でも遅れて近代化を始めた国だったので、猛烈に知識を勉強して先進国に追いつこうとしていました。それが日本の立場とも一致していたので、高等教育に関しては基本的にドイツの方式を取り入れたのです。

それに対して、当時としてはもっとも進歩的な考え方のもち主だった菊池寛は、※アングロサクソンの人間観をもっていたのでしよう。だから、生活から※遊離した専門性ばかり重視するドイツ的人間観を受け入れず、「生活第一」と唱えたわけです。

ただし、仮に日本がイギリス式の全寮制を取り入れたとしても、それがうまくいったかどうかはわかりません。戦後、イギリスを真似た全寮制の高等学校が設立されたこともありますが、成功したものはわずかです。

いずれにしろ、日本ではいまでも知識偏重へんちゆうの教育が続いています。知育に対して徳育の大切を説く声も①すくなからずありますが、徳育は基本的に生活経験を通じて行われるものなので、現在の学校ではなかなかうまくいきません。

ただ、いわゆる知識にも徳育に役立つものもあります。それは、「ことわざ」です。ことわざは過去の人々が作った知識ですが、特定の個人によって発見したものではありません。多くの人々が日常生活の中で共通して経験したことを、ひとつの言葉にまとめたものです。

**A** 「隣の花は赤い」ということわざがあります。自分のところにあるものの価値は認めず、離れたところにあるものには価値を見出しやすい。そんな経験を、多くの人々がしてきたのでしょうか。それを「隣の花は赤い」という比喩ひゆに結実けつじつさせたのです。

たとえば自分の会社に不満のある友人から「転職しようかどうしようか迷ってる」と相談されたときに、「隣の花は赤い」というからねえ」といえば、それだけで、「転職すればまた別の会社がよく見えるかもしれないよ」というアドバイスになるでしょう。それは決して個人的な考えではなく、先人たちがたくさん経験を通じて得た知恵です。それだけに、説得力もあるのです。

**B** 昔の庶民しよみんは、ことわざを使って子供をしつけました。親が自分の言葉で教えるより、ことわざのほうが子供も「なるほど、そういうものか」と得心とくしんしやすいのです。近代教育はどういうわけか、ことわざのもつそういう価値を否定してきました。これは日本にかぎったことではありません。どの国でも、ことわざを生かす教育をしているところはありません。

これは、②実にもつたないことです。さらにいえば、日本には「川柳」という文化もあります。同じ五七五の俳句とくらべると、川柳のほうが生活に近いところから生まれるだけ、知恵として活かせる先人の経験がたくさん含まれています。その意味でことわざとよく似ていますし、川柳から生まれたことわざもすくなくありません。

たとえば、いまでは世襲の難しさを教えることわざとして使われている「※売り家と唐様で書く三代目」は、もともと川柳でした。これひとつ取ってみても、川柳はきわめて知的な創作だといえるでしょう。

**C** 俳句は国語の教科書に載っているのに、川柳は載りません。あからさまには言葉にはしないでしょうが、③川柳は低く見られています。かつて全日本川柳協会の会長を務められた今川乱魚いまかわらんぎよさんは、川柳を国語の教科書に載せることを悲願にしていました。それを果たすことのないまま二〇一〇年に亡くなりました。

川柳が生まれたのは、俳句よりもやや遅れた江戸時代中期のことです。江戸、飯田橋に作られた拠点で一般から作品を募集するようになると、多くの川柳が寄せられました。都市生活者の知的な表現活動として、かなりの広がりをもっていたわけですから。

当時の江戸は世界でも一、二を争う人口があり、ロンドンやパリに匹敵する大都会でした。

教養のある武士や商人も多かったため、川柳のような知的な遊びが流行する土壌はあったのでしよう。その中から、人生の真実をえぐり出すような作品が誕生しました。ある意味で、近代化を先取りしたような文化です。

川柳は国際的にも通用するレベルのものでした。たとえば、いまの天皇陛下の皇太子時代に英語を教えた故・レジナルド・ブライス(学習院大学教授)は俳句の研究者でもありましたが、川柳がいちばん面白いと考えていたようです。

経験を重んじるイギリス人だけあって、そこに生活から生まれた豊かな知恵が表現されていることを理解していたのでしよう。

ところが明治維新を経ると、「近代化された西洋の文化こそが優れている。日本の古い文化は価値がない」という風潮になり、川柳も否定されました。

和歌や俳句も危機的な状況になりましたが、こちらは正岡子規という傑出した改革者が現れ、近代化を成し遂げ、生き延びました。しかし子規は地方出身者なので、都会的な川柳の洒落た面白さは十分には理解できなかったものでしょう。

もともと、知識と経験は相性がよくありません。放っておくと、この二つはなかなか手を結ばない。それを結びつけて新しいものを生み出すには、何らかの触媒が必要でしょう。化学の世界では、そのままでは化合しないAとBという物質があるとして、Cという触媒を使うことで両者を反応させる手法が確立しています。化合したものの中にはCが存在しないのです。

そのままでは結びつかない、相性の悪い知識と経験を化合させるのに必要な触媒は何でしょうか。

それは、人間の「I」方にほかなりません。別々に存在している知識と経験に創造的な思考を加えることで、新しい価値を生み出す。私はそれを「触媒思考」と呼びます。これがなければ、いくら知識や経験だけを積んでも、新しい知恵は生まれません。

④この触媒思考を小規模ながらやっているのが川柳だと思います。川柳は、実際にあった出来事(経験)をそのまま書いたものでもなければ、既存の知識を右から左に伝えたものでもありません。

その両方を自分の頭の中で触媒的に化合させた結果、「隣の花は赤い」といった新しい化合物Ⅱ発見が生まれるのです。

こうしたケースは、俳句にもないわけではありません。たとえば滝瓢水たきひょうすいという江戸中期の俳人は、知識と経験を見事に結びつけた句を数多く残しました。彼はもともと播州ばんしゅう(現在の兵庫県)の富裕な商家に生まれましたが、やがて家が落ちぶれて経済的に※逼迫ひつぱくし、生活するのにかかなりの苦勞を味わいました。その経験と知見を結び合わせる触媒をもっていたようです。

たとえば、あるとき旅の僧が瓢水を訪ねてきました。しかし瓢水は不在で、家の者に聞くと「風邪かぜをこじらせたので薬を買いに出かけた」という。それを聞いた僧は、「悟りさとを開いたといわれるが、瓢水も命が惜しくなられたか」と嫌みをいって立ち去ります。帰宅してその話を聞いた瓢水は、こんな句を詠みました。

浜までは 海女あまも※蓑みの着る 時雨しぐれかな

海女はどうせ海に入らず濡れになるのに、雨が降っていれば蓑を着て浜まで行く。そうやってわが身を⑤いとおしむのは※床ゆかしい。美しい。自分も死ぬまでは立派に生きたいのだ——という気持ちを、この句に込めたのです。生きていくための知恵として、ことわざに匹敵する力を持った俳句だといえるのではないのでしょうか。

蔵売って 日当たりのよき 牡丹ぼたんかな

これも瓢水の句です。破産して蔵を売らざるを得なくなりましたが、蔵がなくなっておかげで、いままでは日陰にあった牡丹に日がよく当たるようになった。財産を失うという辛い経験も、一方でいままで気づかなかつた⑥新しい価値をもたらしてくれる、ということ。Ⅱ一辺倒の人間からは出てこない深い洞察てんさつがそこにはあります。知識とⅢの化合からは、何ともやわらかくて温かみのある世界が生み出されるのです。

(外山滋比古「考えるレッスン」より)

※出題の都合上、一部表記を改めた箇所があります。

#### 〔語注〕

※アングロサクソン……イギリス国民。

※遊離……もともと一体であるはずのものが、離れて存在すること。

※川柳……江戸時代中頃から盛んになった季語を必要としない五・七・五の一七字の短詩。話し言葉で書かれ、人や出来事をテーマとしたものが多い。

※世襲……その家の格式・地位・財産・仕事などを子孫が代々受けつぐこと。

※売り家と唐様いゑ からようで書く三代目……初代が苦心して財産を残しても、三代目にもなると没落してついに家を売りに出すようになるが、その売り家札の筆跡は

唐様（中国の書風）でしゃれている。遊びにふけて、商いの道をないがしろにする人を皮肉ったもの。

※逼迫……事態がさしせまって、ゆとりがなくなること。

※蓑……カヤなどを編んでつくったマントのような雨具。

※床しい……心がひかれる。

問1 [A] [C] にあてはまる言葉として適切なものを、次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア たとえば      イ しかし      ウ しかも      エ だから

問2 ——線①「すくなからず」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 全くないさま      イ 少ないさま      ウ ちょうどよいさま      エ 多いさま

問3 ——線②「実にもったいないこと」とありますが、それはなぜですか。次の文の [ ] にあてはまるように、これ以降の文章中の言葉を用いて二十  
五字以内で答えなさい。

●ことわざは [ ] から。

問4 ——線③「川柳は低く見られています」とありますが、これについて説明した次の文の [ i ] ・ [ ii ] にあてはまる言葉を本文中から指定された字数で探し、それぞれぬき出しなさい。

●明治維新が進むと、「日本の古い文化は価値がない」という考えが広まった。その中で和歌や俳句は [ i (四字) ] により近代化を遂げることができたが、 [ ii (三字) ] な川柳は、地方からきた [ i ] には受け入れられず、低く見られる結果となってしまった。

問5 I にあてはまる言葉を本文中から探し、二字でぬき出しなさい。

問6 — 線④「この触媒思考」とはどういうものか説明しなさい。

問7 — 線⑤「いとおしむ」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア つらく思うこと      イ 大事に思うこと      ウ さみしく思うこと      エ ふしぎに思うこと

問8 — 線⑥「新しい価値」とありますが、「蔵売って日当たりのよき牡丹かな」の俳句における「新しい価値」とはどのようなものか答えなさい。

問9 II にあてはまる言葉を本文中から探し、二字でぬき出しなさい。

問10 III にあてはまる言葉を本文中から探し、二字でぬき出しなさい。



③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

史郎伯父おじさんの部屋はいつ来ても埃ほこりっぽい。 **A** に詰つままった本棚か

ら本を出し入れするたびに、窓まどからの光を受けた埃が瞬またたくようにして光る。

つま先立ちをしているからか、小春のむきだしのふくらはぎは **B** と

震ふるえている。本棚の一番上の段に精いっぱい手を伸ばしているその姿は、

同じクラスの黒板消し係の女の子みたいだ。あんな高いところにどんな本があるのか、真歩は知らない。

「はる姉」

「ひゃっ」

小春はびくつと肩を震わせて、すぐにこちらを振り向いた。

「真歩かー、もーびつくりしたじゃん！ あんた忍者になれるよ、いま気

配ゼロだったからマジで」

小春は少し気まずそうに真歩を見ると、ゴボゴボと咳せきをした。やっぱり

本棚には埃が溜たまっているらしい。

「なんか本探してるの？」

「んー、別にー」高校三年生の姉に向かって「参考書？」と聞こうとしたが、そんなわけがないと思い真歩は言葉を換かえた。

「……はる姉がおばあちゃんちいるなんて珍めづしくない？」

「そー？ でも来たら和菓子とかもらえるしー」

今日は水ようかんだったし、と、小春は返事になっているようななっていないようなことを言いながら、伯父の部屋からさっさと出て行ってしま

った。狭い部屋を囲い込むようにして立っている本棚には、上から下までぎつちりと本が並べられている。ここはどんな本でも手に入ってしまう魔法の図書室みたいだ。

家から、駅や商店街がある海の方向とは反対に走ると、いくつもの寺や長い階段、墓地があり、色とりどりのあじさいが咲く山がある。伯父と祖母そぼが暮らす小さな家は、その山の中にある。かくれんぼの鬼に見つからないようにひっそりと隠れているようなこの家も、魔法の図書室のような伯父の部屋も、真歩の大好きな場所だ。この山には不思議な動物や知らないものがたくさん眠っている気がする。歌う花とか、しゃべるリスとか、歩く家とか。

「真歩？」

ガチャ、と固い音がしてドアが開いた。「来てたのか」煙草たばこの匂においがして、伯父だとわかる。「お前、ランドセル背負せってるようなガキなんだから、とかで遊べ」伯父の低い声には芯しんが通っている。伯父には、なんというか、煙草が似合うとか、ひげが似合うとか、そういう外見的なものではなくて、例えば上の兄ふたりには絶対にならないような大人の雰囲気がある。そしてそれはきつと、手に入れようとして誰もが手に入れられるものではないのだろうかとうと真歩は思う。

「カメラ、大事だいじにしてるか」

うん、と真歩が頷うなずくと、伯父は「そーか」とだけ言って机すわに座った。プ

リントやペンや色々なもので散らかった机の上は、いつ来ても片付いていない。

ふたりの兄はよく「あんなに無愛想なのに塾講なんてほんとにできんのかねえ？」とげらげら笑っているけれど、真歩は、伯父さんが先生だったらきつと塾が好きになるのにな、と思っていた。確かに愛想はないけれど、伯父はやさしい。そのやさしさは、①雨が降っているけれどなぜか空気はあたたかい、そんな夜に似ている。

「伯父さん、さっきはる姉来てたよね？」

「あー……来てたかもな」伯父さんはこつちを向かないで答える。

「僕、はる姉ここにいるの初めて見た」

「そうか？」

「はる姉よく来るの？ 本、借りてくの？」

いつでもどこでもうるさいはる姉と、伯父の持っている本とがどうしても結び付かない。どんな本でも揃っているこの魔法の図書室は、自分だけが知っている秘密の場所みたいな気がしていたので、真歩は少し悔しくな

った。

「知らねえなあ。何か借りてったのかもな」

知っているんだな、と真歩は思った。②伯父は、誰がどんな本を借りていったのか誰にも言わない。そういえば、と真歩は思い出す。伯父さんは、僕が小学一年生の時、お父さんの病気を調べるために体に似合わないほどの分厚い本を借りていったことも、誰にも言わないでいてくれた。

本を借りるって、自分がこういう人ですってバレてしまうみたいで、ちょっと恥ずかしい。伯父は、そういう気持ちをわかってくれている気がする。だから、やっぱりやさしい人だと思う。

父がいたころ、本はとても重かった。持ち歩きができないくらいに重くて大きくて、こんなふうにならぬ日かて読み切ってしまうものだとはい底思えなかった。

「じゃあ僕帰るね。これ借りてくね」真歩は大きな写真集をCとさせた。伯父が振り返らないと知ってはいるけれど、一応だ。

「真歩」

伯父は万年筆のキャップを、かぶり、と外した。

「またいっぱい写真撮れたら、見せろよ。俺は山も海もあんまり好きじゃないけど、お前の撮る風景なら好きだから」

「……伯父さん」

「ん？」

「そういうこと、昔から言えてたら結婚できてたかもね」

「……そういうこと、小学生のうちから言ったらロクな大人にならねえぞ」

下で、ばあちゃんが水ようかんを用意してる。伯父はそれだけ言うとしっし、と真歩に向かってのひらを払った。夏になるといつも、祖母は水ようかんをきんきに冷やしておいてくれる。つぶあんがそのまま入っている水ようかんの表面はとてもびかびかして、③まるで夏を映す鏡みたいだ。

その鏡に、自分の姿は映る。伯父さんも映る。おばあちゃんも映る。写真には、お母さんも映る、きょうだいみんないっしょにだつて映る。空だつて花だつて風だつて映る。

だけどたつたひとつだけ、④映らないものがある。

( 中 略 )

あの日は雪が降っていた。小学二年生の冬だった。親戚が皆集まった葬式も告別式もよく覚えていないけれど、あの寒い雪の夜だけは、肌の冷たさもそのままに覚えている。だけど、あのときはその日起こつたことの意味がよくわからなかった。

ただ、家族皆が泣いていた。いつもはエプロンを着てニコニコしている母さんも、いつもならだらしている光彦兄ちゃんも、朝はメイクがうまくいかないと騒いでいたはる姉も、おいしい朝ごはんを作ってくれたるり姉も、昨日も宿題をしていなかった凌馬兄ちゃんも、皆の後ろに立っている孝史も。⑤ただ一人、琴美だけはまっすぐに父のことを見つめていた。

何か、とても悲しいことが起きたんだ。それだけは分かった。四歳のころに入院してしまったので、真歩の記憶の中では、「お父さん」とは人生のほとんどを病院の中で暮らしている人だった。だから、真歩の中で父は「建築家」というイメージではない。病院の中で寝ている人。白くて、細くて、アゴから頬にかけて **D** とひげが生えている人。そして、そうでありな

がらも、よく笑う人。いつ会いに行っても、鼻から管が伸びていても、楽しそうに笑う人。

だから、その日も何が起こつたのかよくわからなかった。ただいつもと違うのは、お父さんの顔が見えないということだった。白い布がかけられていて、いつものやさしい笑顔が見えない。

⑥目と鼻と口がなくなつてすらりとした顔は、誰も足を踏み入れていない雪原のようだった。

皆が泣いていたので、真歩もつられて泣いた。家族が悲しい顔をしていると、自分も悲しい気持ちになる。

母さんは病室に残つた。真歩は琴美と孝史に挟まれて、病院の真っ白な廊下を歩いた。ベージュのタートルネックを着た琴美は、いつもより歩幅が狭かつた。パンプスが、かつ、かつ、と力無い足音をたてていた。前には見慣れた⑦背中が四つ、並んでいた。「お兄ちゃん」真歩は小さく声を出した。どちらかでもいい、振り向いてほしい。「お姉ちゃん」どちらかでもいい、いつもみたいに笑つて頭を撫でてほしい。

真歩がいくらそう願つても誰も振り向かなかつた。すぐそばに皆がいるのに、⑧世界で一人ぼっちになつてしまったみたいだった。

「皆、どうして泣いてるの」

真歩は、琴美と握る手にぎゅつと力を込めて言った。

「皆ね、どうしたらいいかわからないの……何で、どうして、って、みんな思つてるの」

琴美は前を歩く四つの背中から目を離さない。

「琴姉は？ 何で泣いてないの？」

琴美は困ったような顔で孝史を見た。病院の廊下の空気はとても冷たくて、繋いでいる右のてのひらだけがあたたかかった。

「私もどうしたらいいのかわからないんだけど……でも、私たちは生きていかなくちやいけないでしょ。しっかりしなくちやいけないでしょ」

真歩に言っているというよりは、まるで自分自身に言い聞かせているようだった。

「真歩くん」

病院から出たところで、孝史が真歩の左手を握って傘を差してくれた。

大粒の雪がEと重そうに落ちてきて、傘に影をつくった。真歩は、病院には雪が似合うと思った。白の上に白が覆い被さって、苦しみとか悲しみとか、そういうものが隠れてしまう気がした。

「星則さん……お父さんはいなくなったわけじゃないんだよ」

孝史の声は低くてやわらかい。孝史が何か話すと、真歩の右手を握る琴美のてのひらに、ぐっと、力が入った。

「お父さんはこの町が大好きだったから。いっぱいこの町に家を作って、いろんな人に感謝されていたから。お父さんは、ずっとこの町にいるよ。これからもずっとね、この町のどこかで今までみたいに生きてるんだよ」

そして、僕がその町をパトロールするんだからね、お父さんのために安全な町を守らないとね、と孝史は微笑んだ。

「お父さん、ずっとこの町にいるんだね！」真歩が声を弾ませてそう言うのと、前を歩いていたらりがちらりとこちらに振り返った。

琴美の歩幅がどんどん小さくなっていく。雪の中で、四つの背中が遠くなくなっていく。

「お父さんは、皆がこれからも笑顔で生きていけばまた会いに来てくれるんだよ。絶対そうだよ。今はいっぱい仕事して、疲れちゃっただけなんだ。真歩くんが毎日笑って過ごしていれば、また会えるよ」

琴美の足が止まった。

「ごめん、靴ひもほどけちゃった」

ちよつとごめん、と言って琴美はすつと身をかがめた。顔を下に向けて、背中を丸めていた。真歩は、寒いな、と思った。息が白い。

今になってわかることもある。琴美は※パンプスを履いていた。だからあのとき、⑨靴ひもがほどけるなんてことはありえなかった。

琴美はそのまま立ち上がらなかつた。小さく体をたたんだまま、細かく肩を震わせていた。やがて孝史も身をかがめて、震える琴美の背中をゆくりと何度も撫でていた。真歩は、琴美の黒髪に落ちては溶けていく雪の一粒一粒を見ていた。

ずっと見ていた。

(朝井リョウ「星やどりの声」より)

※出題の都合上、一部表記を改めた箇所かしよがあります。

〔語注〕

※パンプス……甲の部分を広く開けた、止め具や締めひものない婦人靴。

問1 A E にあてはまる言葉として適切なものを、次のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ひらひら      イ きちきち      ウ ほとほと      エ ぶつぶつ      オ ふるふる

問2 ——線①「雨が降っているけれどなぜか空気はあたたかい」は、伯父のどういうところと重なりますか。「くところ」という言葉につながるように、本文中から二つ探し、それぞれ五字以内でぬき出しなさい。

問3 ——線②「伯父は、誰がどんな本を借りていったのか誰にも言わない」とありますが、その理由について説明した次の文の i ii にあてはまる言葉を本文中から指定された字数で探し、それぞれぬき出しなさい。

●真歩は、誰がどんな本を借りたのかを言ってしまうと i (五字) ii (七字) 人が ii (七字) とわかってしまうので、伯父は言わないと考えている。

問4 ——線③「まるで夏を映す鏡みたい」とありますが、ここで使われている表現技法を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直喩      イ 隠喩      ウ 倒置法      エ 擬人法

問5 ——線④「映らないもの」とは何ですか。本文中からぬき出しなさい。

問6 ——線⑤「ただ一人、琴美だけはまっすぐに父のことを見つめていた」とありますが、なぜ琴美だけは泣いていないのですか。理由を説明しなさい。

問7 ——線⑥「目と鼻と口がなくなってすらりとした顔」となっている理由を説明した次の文の i ii にあてはまる言葉を本文中から指定された字数で探し、それぞれぬき出しなさい。

● i (三字) ii (六字) がかけられていて、お父さんの ii (六字) が見えないから。

問8 — 線⑦「背中が四つ、並んでいた」とありますが、誰の背中ですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母・光彦・はる・るり

イ はる・るり・琴美・真歩

ウ 光彦・はる・凌馬・琴美

エ 光彦・はる・るり・凌馬

問9 — 線⑧「世界で一人ぼっちになってしまったみたいだった」とありますが、このときの真歩の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一人だけ事情がわからず、仲間外れにされていると思っている。

イ 皆から相手にしてもらえないことを、とても悲しく思っている。

ウ 皆が悲しい気持ちでいるのに、自分は悲しくないと思っている。

エ お父さんのようにいつか皆亡くなってしまうと思っている。

問10 — 線⑨「靴ひもがほどけるなんてことはありえなかった」とありますが、琴美は何のために身をかがめたのですか。四十字以内で説明しなさい。







# 帝京八王子中学校

二〇二二年度入学試験問題

解答用紙（第二回A）

## 国語

受験番号

氏名

一	
⑥	①
	む
⑦	②
⑧	③
⑨	④
	しい
⑩	⑤

二									
問10	問9	問8	問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1
						i			A
						ii			B
									C
									D
									E

三									
問10	問9	問8	問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1
			i				i		A
			ii						B
							ii	ところ	
									C
									D
								ところ	
									E

点

# 帝京八王子中学校

二〇二二年度入学試験問題

解答用紙（第二回A）

## 国語

受験番号

氏名

模範解答

⑥	①
検査	いとなむ
⑦	②
貿易	ふねん
⑧	③
招待	ほうさく
⑨	④
許可	まずしい
⑩	⑤
清潔	ぞうか

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
A	エ	知恵として活かせる先人の経験がたくさん含	まれている	正岡子規	思考	イ	日陰にあった牡丹に日がよく当たるようになったという	知識	経験
B				ii					
C				都会的					
イ									

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
A	エ	知恵として活かせる先人の経験がたくさん含	まれている	正岡子規	思考	イ	日陰にあった牡丹に日がよく当たるようになったという	知識	経験
B				ii					
C				都会的					
イ									

「無愛想な」も可

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
A	イ	愛想はないところ	ア	お父さん（父）	自分たちはしっかりして生きていかななくてはならないと	白い布	お父さんが亡くなつた悲しみに泣いている顔	エ	を皆に見られないようにするため。
B		ii				ii			
C		やさしい				やさしい笑顔			
D									
E									
ウ									

点

5点	2点	2点	各2点	5点	2点	2点	各2点	各2点	各2点
----	----	----	-----	----	----	----	-----	-----	-----

2021 年度 入学試験問題 (第 2 回 A)

# 算 数

## 注 意 事 項

1. 試験時間は 50 分間です。
2. 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。

**帝京八王子中学校**

1 次の  にあてはまる数を入れなさい。

(1)  $9.84 - 3.28 + 6.56 \times 4 =$

(2)  $\left\{1\frac{1}{2} + \frac{2}{3} \div \left(\text{} - \frac{3}{4}\right)\right\} \times \frac{2}{5} = 1\frac{2}{3}$

(3)  $\left(1\frac{2}{3} - 1\frac{1}{5}\right) \div \frac{2}{5} - \frac{3}{4} =$

(4)  $24 \div 8 + (5 + 6) \times 9 - 8 + 49 =$

<計算らん>

2 次の  にあてはまる数を入れなさい。

(1) 時速 72 km で 10 分間走ると  m 進みます。

(2) 96 の約数をすべて足すと  になります。

(3) 80 円のみかんと 120 円のりんごを合わせて 12 個買うと代金が 1240 円でした。  
このとき、りんごは  個あります。

(4) A さんが算数のテストを 3 回行い、62 点、77 点、82 点を取りました。平均点が  
74 点以上となるには次のテストで  点以上取る必要があります。

(5) 一周の長さが  m の池の周りに 5 m 間かくで木を植えると 23 本植えることが  
できます。

(6) 2 本の対角線の長さの和が 30 cm、差が 4 cm のひし形の面積は   $\text{cm}^2$  になり  
ます。

<計算らん>

3 ある数に12を足してから2で割るところを、まちがえて12を引いてから2をかけてしまった結果、その値は112になりました。次の問いに答えなさい。

(1) ある数はいくつですか。

(2) 正しい計算をすると、答えはいくつになりますか。

<計算らん>

4 1, 2, 2, 4, 3, 6, 4, 8, …… はある規則にしたがって数字が並んでいます。次の問いに答えなさい。

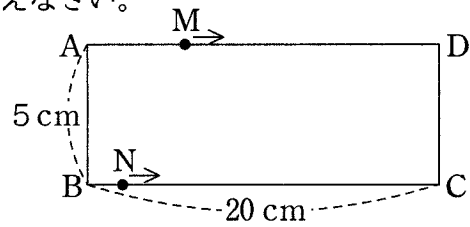
(1) 20 番目の数はいくつですか。

(2) 2 回目の 100 が出てくるのは、はじめから数えて何番目ですか。

(3) 100 番目までの数をすべて足すといくつになりますか。

<計算らん>

- 5 下図のような長方形ABCDがあります。点Mは辺AD上を秒速5 cmの速さで往復しており、点Nは辺BC上を秒速2 cmの速さで往復しています。今点Mが点Aを点Nが点Bを同時に出発しました。このとき、次の問いに答えなさい。



- (1) 出発してから3秒後の四角形ABNMの面積は何 $\text{cm}^2$ ですか。
- (2) 出発してから7秒後の四角形ABNMの面積は何 $\text{cm}^2$ ですか。
- (3) 四角形ABNMの面積が初めて $90 \text{ cm}^2$ になるのは何秒後ですか。

<計算らん>



6 ある朝8時ちょうどに、T君と兄の2人で自宅から学校に向かいました。はじめは2人で時速4kmの速さで歩いていましたが、3分間歩いたところでT君が忘れ物に気づきました。そこでT君は時速12kmで走って自宅にもどり、1分間で支度をし直してから、もどってきたときと同じ速さで学校に向かいました。その間、兄は進まずにT君を待っており、2人が合流してからは再び時速4kmの速さで歩いて学校に向かいました。結局、2人が学校に着いたのは8時15分でした。次の問いに答えなさい。

(1) 兄がT君を待っていた時間は何分間ですか。

(2) 自宅から学校までの道のりは何mですか。

<計算らん>

# 帝京八王子中学校

2021年度入学試験問題  
解答用紙 (第2回A)

## 算数

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1	(1)		(2)		(3)		(4)	
---	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--

2	(1)	m	(2)		(3)	個	(4)	点
	(5)	m	(6)	cm <sup>2</sup>				

3	(1)		(2)	
---	-----	--	-----	--

4	(1)		(2)	番目	(3)	
---	-----	--	-----	----	-----	--

5	(1)	cm <sup>2</sup>	(2)	cm <sup>2</sup>	(3)	秒後
---	-----	-----------------	-----	-----------------	-----	----

6	(1)	分間	(2)	m
---	-----	----	-----	---

得点	
点	点

# 帝京八王子中学校

2021年度入学試験問題  
解答用紙 (第2回A)

<b>算数</b>	受験番号		氏名	模範解答
-----------	------	--	----	------

1	(1)	32.8	(2)	1	(3)	$\frac{5}{12}$	(4)	143
---	-----	------	-----	---	-----	----------------	-----	-----

2	(1)	12000 m	(2)	252	(3)	7 個	(4)	75 点
	(5)	115 m	(6)	110.5 cm <sup>2</sup>				

3	(1)	68	(2)	40
---	-----	----	-----	----

4	(1)	20	(2)	199 番目	(3)	3825
---	-----	----	-----	--------	-----	------

5	(1)	52.5 cm <sup>2</sup>	(2)	47.5 cm <sup>2</sup>	(3)	12 秒後
---	-----	----------------------	-----	----------------------	-----	-------

6	(1)	3 分間	(2)	800 m
---	-----	------	-----	-------

各5点

得点	
点	点